

校長会報

令和2年度 第2号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL (0852)27-8530
FAX (0852)67-3360

変えること、変わること、変えぬこと



島根県教育委員会教育長

新田 英夫

校長の皆様には、学校運営の責任者として日々島根の子どもたちの教育に尽力いただいておりますことに、深く敬意を表しますとともに心より感謝申し上げます。

八月六日、小学校長会理事会の皆様との意見交換の時間を設けていただきました。今年度は、小学校において新しい学習指導要領が全面实施となる大きな節目の年であると同時に、昨年度末から続く、新型コロナウイルス感染症への対策が学校現場における喫緊の重要課題として重なり、校長の皆様をはじめ、全ての教職員の皆様に大変な負担がかかっているものと推察しながら、この意見交換会に参加しま

した。

会議の場で、校長の皆様のお話を伺い、こうした中であっても、各学校の実情を十分に勘案しながら、子どもたちのかけがえのない一日一日を思い、悩みながら試行錯誤を重ね、学校教育活動の充実に全力であたっておられる姿に接することができました。皆様のお話や表情から、子どもたちへの深い愛情と、難局に立ち向かうチャレンジ精神を感じ、大変頼もしく、ありがたく感じたところです。皆様との意見交換を通じて、感じましたことを述べたいと思います。

まず、「新しい学びの環境づくり」についてです。これは、「新型コロナウイルスウ

イルス感染症のリスクと向き合い、最大限の対策を講じること」と「子どもたちの健やかな学びを保障すること」を両立できる、新しい学校教育活動の様式を創り出し、定着させていくことだと考えます。学校での諸活動はもとより、登下校等も含めた様々な場面において、感染リスクが高い活動や場面を整理し、どう対策を取り、指導するのか、子どもたちの自覚をどう促すのか、保護者の皆様にも理解いただきながら、日常のさりげない動作も含め、行動を変えていく必要があります。

校長の皆様のお話を伺いながら、この「新しい学びの環境づくり」を定着させていく上では、児童一人一人の自ら変わろうとする力を引き出すことも重要ではないか、と感じました。たとえば、子どもたちが、「手を洗うことの大切さ」を学ぶことに加え、「洗った手で他のものに触れるとどうなるか」を考えてみることで「家でおやつを食べるときに玩具に触れることはやめよう」といった主体的な行動の変化や、手洗いの一層の定着が図られるように思います。奨励すべき行動、禁止すべき行動、それぞれを指導する理由や意味について、発達段階にに応じて説明を加え、想像を促すことで、子どもたちが、自らの力で正しい判断、適切な行動につなげていけるよう変わることを期待します。

また、島根の教育において欠くことのできない地域の皆様との交流やふる

さと学習などにも大きな制約が生じているものと思えます。年度当初に、授業で計画していたふれあいの機会は実現できないとしても、そこで子どもたちに伝えなかったことや、気づいてほしかったことのいくつかでも、別の形を通して子どもたちに届けていただくよう願っています。地域の皆様の思いや願いを子どもたちに伝え、注ぐことは、変えてはならない取組であろうと思えます。地域の方々からの手紙やメッセージ、ICTを活用したふれあいや、子どもたちは、学校生活で得た貴重な財産にしてくれるものと思えます。

各学校においては、臨時休業や分散登校などにより、計画していた授業時間数が確保できないことに加え、感染リスクの高い活動を極力減らす必要があることなど、年間指導計画に大きな変更を加えざるを得ない状況に對し、様々な工夫と苦勞で立ち向かっておられます。授業時間の中でしかできないこと、家庭でもできること、といった内容の精選に加え、教科における単元の指導順を変えての学びの集約化や重点化などの工夫を加える上では、学校間での事例の共有や更なる改善に向けた検討、協議も不可欠であろうと思えます。校長会の役割は、ますます重要になっていくものと思えます。県教育委員会といたしまして、引き続き各学校の実情を踏まえながら、健やかな学びの環境づくりに努めてまいります。

雲南支部

ミドルリーダーとして育成するにふさわしい人材を見極め、生かす校長としての経営力

校長 村尾隆晃

(雲南市立大東小学校)

学校は、組織的には、主任を含む教員が同じ階層に属して、その上に校長・教頭といった管理職がいる、いわゆる「鍋蓋型」と揶揄される状況が当たり前のこととして長きにわたり受け入れられてきた。校長・教頭をトップに他の職員は年齢や経験年数に関わらず、全て横並び。この教職員の横並び意識が学校を大きな変化を嫌い、改善や改革を躊躇する、全体として高まっていきにくい組織にしてしまっている要因の一つではないかと私は考えている。

新型コロナウイルス感染症の脅威と対応の中、少々関心が薄らいだ感も否めないが、教職員の働き方改革についても同様のことが言える。最終的には教職員の意識改革が進み、自らの働き方を見つめ直し、教職員自らの意思で主体的に推進されなければ真の改革・改善は実現されない。教職員一人一人が、チーム学校の一員として職場環境の向上を心から願い、常に働きやすい職場を意識しながら学校の働き方改革に取り組んでいくことが求められる。そのためには、校長でも教頭でもない、けれども学校の教育活動や危機管理の在

り方を高い視点から広く全体的に見渡し、教職員集団の先頭に立って動くことのできるミドルリーダーの存在が必要となってくる。

平成十九年の法改正により、学校管理職は、主幹教諭・指導教諭等のミドルリーダーとチームを組み、学校経営を行うことができるようになった。けれども、本市のように小規模校・極小規模校がほとんどで、主幹教諭を置いていない小中学校が二十二校中、わずかに二校しかないようなところで主幹教諭・指導教諭の活躍はさほど期待できない。年齢や経験年数に関係なく学校全体を高い視点と広い視野から俯瞰でき、行動できる人材の活躍を待つほかない。そして、我々校長にはそのようなミドルリーダーの原石を見極め、発掘する力とそのような人材がやりがいや生きがいを感じながら日々の職務に臨んでいく環境づくりをしていく力が求められる。そしてそのミドルリーダーたちが次の教頭・校長をめざし学校運営や学校経営に取り組んでいくような好循環が生まれてくれば、きっと本県の教育もさらに向上していくものと考ええる。

近年県内において、教頭試験の受験者が減少している背景には、我々校長にミドルリーダーを掘る眼力と育てていく育成力が欠如していることの裏返しではないかと自戒の念とともに感じている。

シリーズ特集 『ミドルリーダーの育成』

大田支部

目的と役割、評価を活かしたミドルリーダーの育成

校長 橘弘章

(大田市立大田小学校)

教員生活が始まった頃の自分を振り返ると、その当時、授業や部活動での指導、地域や保護者との関わりを見事にされる先輩教員の姿を見て学ぶことができた。時代が変わっても学校には、力量と情熱、人に感化を与える人間性も備えたミドルリーダーが必要である。ミドルリーダーに求められる資質・能力として、「マネジメント力」「企画・調整力」「視野の広い俯瞰力」「コミュニケーション力」を挙げたい。こうした力をつけるために、校長として取り組んでいる三つの事例を紹介したい。

ミドルリーダーが職員を統率しマネジメントの一翼を担うためには、まず、全職員がめざす方向性を共有にすること。そしてその上で、自分の役割を自覚し、そのモチベーションと達成感を得ていくことが必要ではないかと考える。そこで、すべての教育活動をどこに向か

わせていくのか、子どもの強みと弱みを洗い出し、めざす子どもの力や目標を全職員によるワークショップにより、明らかにさせる取り組みを行った。

次に、大事にしたのは、役割をもたせて任せるということである。担任や分掌を決めるとき、本人の意欲と持ち味をどう生かせるかを考えてきた。力が伸ばせるような役割は、何なのか、本人にとって、新たな挑戦と思われる職務であってもこちらが意図し、期待する姿も含めて本人とやりとりするよう努めてきた。さらに、自己の将来像を意識させ、どんな教員になろうとしているのか問いかける等、動機付けにも心がけてきたところである。また時機を見て、管理職に向けての研修の機会も与えてきた。

そして、頑張りを認め、励ましと改善点を適切に評価することが大切である。取り組みと成果を峻別し、小さな成果であっても、取り組んだ内容や取組のプロセスを認めるようにしている。今後も、職務の目的を共有し、役割と評価を適切に与えていくよう努めていきたい。私自身がかつての校長にもらったことを思い出し、ミドルリーダー育成のために繋ぎ続けていきたいと思う。

学校紹介

「コミュニティ・スクールを中心とした
益田市版ライフキャリア教育・ふるさと教育

原田 尚 (益田市立戸田小学校)

校区には柿本人麿生誕の地として柿本神社があり、伝統芸能である田植えが伝承されている歴史的な土地柄であります。また、教室から北に日本海を見ることができ、自然豊かなところで、県内で一番西の端にある学校です。戸田小学校は、全校児童六十名で、前館は木造の古い校舎で趣き深く、歴史と伝統ある学校です。

地域の見守り隊の方が、登下校を見守ってくださっていて、子どもたちも毎朝元気に登校しています。平成三十年からは、コミュニティースクールとして地域、家庭と連携・協働して学校経営を進めています。学校教育目標に「なかよく はっきり」を掲げ、学校運営協議会と合同の研修会を行い、自分の思いや考えをはっきりと伝えることができる子、積極的にチャレンジできる子、ふるさと小野に誇りを持つ子といっためざす子ども像を共有し教育活動を行っています。

そこで、昨年度各学年のふるさと教育や益田市版ライフキャリア教育を総合的な学習の時間や他教科と横断的に学習ができるように見直しを図りました。六年生では、たくさんの地域の方にご協力いただいて、国語での学習をもとに「自分たちの地域を元気にするために何ができるか」を考えまし

た。そして、通学路が花であふれ、明るい町にしようとする地域の方と議論しアドバイスをもらい「フラワープロジェクト」を実施しました。学校での学びを地域に生かし、地域での学びを学校での学びにつなげるといった取組になりました。他学年でも、「ふるさと探検」「この地区の森や海を通じた環境学習」など、どの学習もたくさんの地域の方が関わってくださっています。また、今年度からより一層の協働・連携を図っていくために社会教育コーディネーターを配置していただきました。

さらに、小野中学校と合同運動会を実施したり、「つろうて子育て協議会」と連携し、中学校と合同の「海遊び」や「スポーツ大会」を行ったりしています。中学生と一緒に活動することでよい刺激を受けています。小規模校だからこそできる交流活動はとても貴重なものなのです。

今後コミュニティースクールを中心にふるさと小野に誇りを持つ子、めざし、学校、地域、家庭が一体となって教育活動を進めていきたいと思えます。



学校紹介

海と共に 山と共に 人と共に

佐々木 朗 (隠岐の島町立北小学校)

島根県の最北端にある本校は、全校児童数二十一名の小規模校です。学校から歩いて一分。そこには、島内で有数の美しい海(中村海水浴場)が広がります。学校の北側には、勇壮な白島海岸。南にある布施地区には、浄土ヶ浦。そして、奇岩トカゲ岩があり、その眼下に天然林の森が広がっています。この豊かな自然を生かした教育活動が本校の特色の一つであります。

夏休み、学校主催で、地域に出かけるの合宿を行っています。今年、宿泊はできませんでしたが、布施海水浴場でシーカヤック体験を行いました。カヤックを漕ぎ出すと、そこには、コバルトブルーの海がどこまでも澄みわたります。国立公園の荒々しい岩肌が迫ってきます。地域の方々が、隠岐ならではの海産物をこれでもかと入れていただいたおにぎりを食すると隠岐の夏の香りがしました。自然豊かな環境と、地域の人の思いが子どもたちの豊かな感性を育ててくれています。

また、毎学期行われるマラソン大会では、地区の放送が流れ、力走する子どもたちを応援しようとする方々が集まります。地域のお年寄りが、走る子どもたちに一生懸命、拍手を送っ

てくれます。隣接する保育所の園児から「○○お兄ちゃんががんばって。」と。こんな声援が、子どもたちを勇気づけます。力以上のものを出させていたいただいているように思います。

毎年、秋に行われる「きたつこ発表会」は、お世話になった地域の人たちを招いて学習の成果を見てもらう良い機会となっております。クラブで学んだ、地域に伝わる民謡「しようじろう節」。総合的な学習の時間で学んだ「隠岐太鼓」。地域の人から学んだことを地域の賑わいにつなげる試みも微力ながら行っています。

残念ながら、今年、コロナウイルス蔓延防止のために様々な活動が中止となったり、規模を縮小せざるを得なくなったりしました。しかし、様々な形で地域のひと・もの・ことのエールを受けていることを実感しています。

この地で子どもたちが地域と共に育まれ、私たち教員も共に成長できていることが実感できる学校です。



事務局だより

事務局長 仙田浩志

(松江市立持田小学校)

島根県小学校長会 第二回理事会及び 第一回常任理事会(報告)

七月二十一日に標記の会を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策のため会議内容を精選して二つの会を同日に行いました。主な点について報告します。

一 第二回理事会

○島根県小学校長会教育研究大会安来大会の誌上開催について、客野智安来市理事より説明がありました。十月開催に向けて安来市小学校長会が取り組んでこられたご努力に十分応えることができなかったこと、各分科会発表の校長先生方にも対面での発表の場を提供できなかったことに対して、県小学校長会からも心よりお詫び申しあげます。

○令和三年度飯石大会の進捗状況の説明がありました。開催規模について質問があり、後日会長と山碕延男飯石郡理事とで協議した結果、現段階では例年の規模の開催を目的に準備を進めること、新型コロナウイルスの感染状況に応じて柔軟に対応していくことを確認しました。

○総務、調査研究、対策、広報の各部

会を実施し、今年度の各部の活動等について協議を行いました。

二 第一回常任理事会

○島根県教育委員会と県小学校長との意見交換会のテーマ及び話題提供者を決定しました。

中国地区小学校長会 第一回理事会 並びに連絡協議会等について(報告)

七月三十一日(金)、山口市において開催される予定でしたが、中止となり、書面にて次のような情報交換を行いました。

○各県の研究大会について

島根・山口・広島・岡山が誌上発表開催。鳥取が中止。

○全連小島根大会について

中国地区の発表割当を提案。

○その他

教科担任制や専科教育充実に向けた加配の状況、通級指導教室の基礎定数化の進捗状況、新型コロナウイルス感染症対応等について各県の実態を情報交換。

島根県小学校長会第三回理事会(報告)

八月六日、標記の会を開催しました。例年二日間行っていますが、今年度は感染予防のため日程を短縮して一日開催としました。主な点について報告します。

○全連小島根大会について、高橋隆子松江市理事より説明がありました。

全連小理事会での提案に向けて、日程概要や大会副主題の作成等着々と準備を進めておられることが分かりました。

○事務局幹事より、全連小調査への対応依頼や、教育記録の取り扱いについての説明がありました。

○部会を開く時間がありませんでしたので、部会ごとのランチミーティングを行い、協議や情報交換を行いました。

県教育委員会との意見交換会(報告)

八月六日の第三回理事会の午後に県教委との意見交換会を行い、(一)「新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校の対応について」、(二)「教職員を取り巻く現状について(児童の実態・家庭環境、長時間勤務、メンタルヘルス、働き方改革等)」の二つの話題で県教委の皆さんと意見交換をしました。

(一)については、客野智常任理事(安来・赤江小)から、新型コロナウイルス感染症予防に向けて、学校生活、教職員の除菌作業、学習活動や学校行事、保護者・地域との連携等について、赤江小の取組を具体的に紹介されました。また、学びの保障と感染予防の今後に向けての課題についても提案されました。各理事からも、制限のある中で工夫して学習の充実や差別を生まないう指導、保護者・地域との連携を進めている事例が紹介されました。

(二)については、坂田英則常任理事(雲南・加茂小)から、感染予防対策による教職員や児童の状況の変化に起因する課題やマンパワー不足の実態等について紹介していただきました。各理事からも、教職員の疲弊や産休・育休の取りにくさの現状、ICTの整備、再任用制度の拡充等の提案について活発に意見が出されました。

県教委からも、その都度情報提供や施策についての説明、具体的な取組についての感想等をいただく中で、各理事からの思いのこもった話題も提供され、とても有意義な時間となりました。

※今年度に県小学校長会が行う会合については、感染症予防のため、倍の広さの会場を確保し、座席間を広く取って行っています。

編集後記

例年なら運動会や学習発表会などで大忙しの時期ですが、今年は感染予防のため形を変えての実施を余儀なくされています。しかし、どのような形でも子供たちにとって少しでも成長の糧になればと思っています。

ご多用の中、ご寄稿いただきました皆様心より感謝申し上げます。

(松尾)